

- (3) 硬岩に対するシールド掘進方法
- (4) 地質不良箇所の空氣噴出防止方法
- (5) 其他事故防止に対する意見
- (6) 其他工事方式との比較
- 5、水底隧道單線式又は複線式の決定

6、第一期工事として單線隧道を施工するの可否

大體以上の如く第二回の八日には喜安委員長外委員幹事全部が出席、陸軍省軍務局防備課鎌田少佐の「爆弾投下の海底隧道に及ぼす影響に就て」の講演あり、又地震研究所長石本博士の「關門附近の地震に就て」及文理科大學教授坪井博士の「關門附近の地質の概略に就て」の兩講演があつた。

尙會議は前述の通り毎週月曜續開されてゐるが、工務局では既に調査済の計画

線たる下關、彦島、新町(九州間の隧道路線の外に門司市の經濟的理由に基く切望を容れて新)豫定調査線下關、小森江(九州間)を追加し其實地測量に着手することとなり其爲に工務局計畫技師立花次郎氏外五名の技手が担任され門司工務課員の援助によつて關門海底線第二案の現地調査が詳細に行はれる、即ち下關市内長崎陸橋附近より右折し、彦島農林省漁港計畫埋立地を通過して彦島豫定驛から堀越を分岐點に舊計畫線と分れて左折し弟子待暮から海中に入り江の浦下を潜つて門司市小森江町を地下で進み大里驛構内に出る全線約10杆に亘つて海中5個所陸上4個所のボーリングによる地質調査と新線測量を行ひ10月の豫算編成期までに完了する豫定である。技術委員會と並行的に行はれる此新線調査如何によつては隧道の位置が約2杆門司に接近することとなる。

佐々木恒太郎氏

逝去を悼む

昨年來病氣療養中なりし關東瓦斯株式會社取締役佐々木恒太郎氏は七月二十一日淀橋區柏木二ノ六三五の自宅に於て遂に逝去された。同二十三日青山斎場に於て佛式を以て告別式を營まれた。

佐々木氏は私學出の土木技術家としては有數の人物であつた。

我國土木技術界に殘した功績も大なるものである。特に佐々木氏は水力發電工事設計の實務には多大の努力を拂ひ、同時に氏の著述になつた丸善書店發行の土木設計資料と水力發電設計資料とは斯界に多大の参考とせられたものである。

一方に佐々木氏は其出身校たる築地の工手學校を淀橋に移轉して帝國工學院として堂々面目を一新するまで非常なる努力を捧げられた様である。

佐々木氏は氏が生みの親であり、且つ取締役であつた桂川電力會社が東京電燈會社に合併されて以來は關東瓦斯株式會社と、築地の東京印刷株式會社の取締役として其經營の衝に當つてゐた。晩年に至るまで土木學會や鐵道協會などの會合にも能く顔を出し公私ともに立派な代表的人物であつた。氏が日本の土木技術界に寄與された功績に對し我々は謹んで敬弔の意を表するものである。



るので其結果は頗る注目されてゐる。カットは既定計畫線及新豫定線の比較圖)

鐘淵紡績株式會社

東京・向島區隅田町